

短 報

男女群島周辺海域におけるヒゲナガエビの分布について

高田 純司・徳永 武雄・町田 末広・田代 征秋

Distribution of a Penaeid, *Parahaliporus sibogae* in the
Adjacent Water of the Danjo Islands

Junji TAKATA, Takeo TOKUNAGA, Suehiro MACHIDA, and Masatoki TASHIRO

五島福江島南南西35マイルに位置する男女群島周辺は、対馬暖流の影響を受け、マアジ・マサバ・ブリなどの回遊路にあたるが、300m以深海域は殆ど利用されていない。筆者等は、深海域の未利用資源の開発を目的としてトロール網による調査を実施したが、その結果男女群島周辺の330~550mの海域にはクルマエビ科に属するヒゲナガエビ *Parahaliporus sibogae* (DE MANN) りが、分布していることが確かめられたので、その概要を報告する。

調査は、1979年10月から'80年11月までの9次57回、32°41'N~31°10'N, 127°20'E~129°10'Eで囲まれた男女群島周辺の128~555m深の海域で、調査船鶴丸(150吨, 500馬力)のトロール網(図1)を用いて行った。分布量についての検討はトロール網1時間曳網当りの漁獲量(kg), 水温は各曳網点の海底より5m上層の観測値, 曳網水深は曳網場所の平均値を用いた。

図2に、調査地点別のヒゲナガエビの分布量を等深線とともに示した。分布は砂泥底質の大陸棚斜面に広くみられ、分布量は、入網の見られた47回の平均22.5kg, 最高63.5kgであった。分布量から見た主

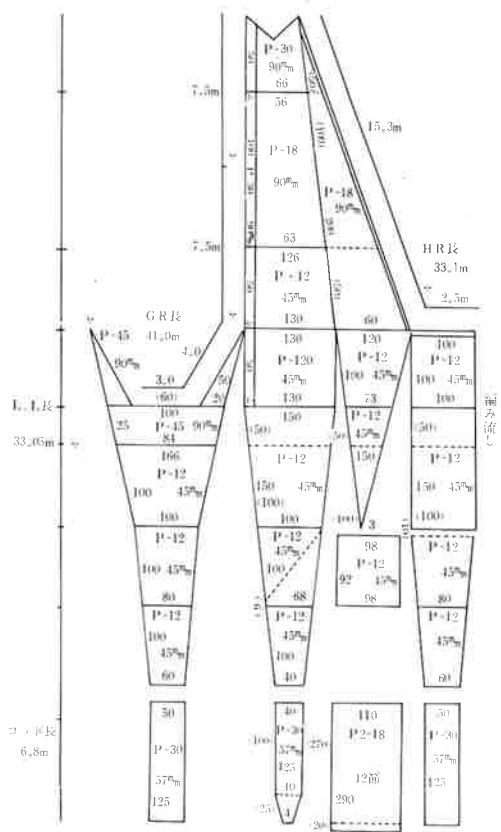


図1 トロール網展開図

分布域は、男女群島南部の砂質急斜面と、福江島南西の海溝北端部の泥質平坦部海域であった。曳網水

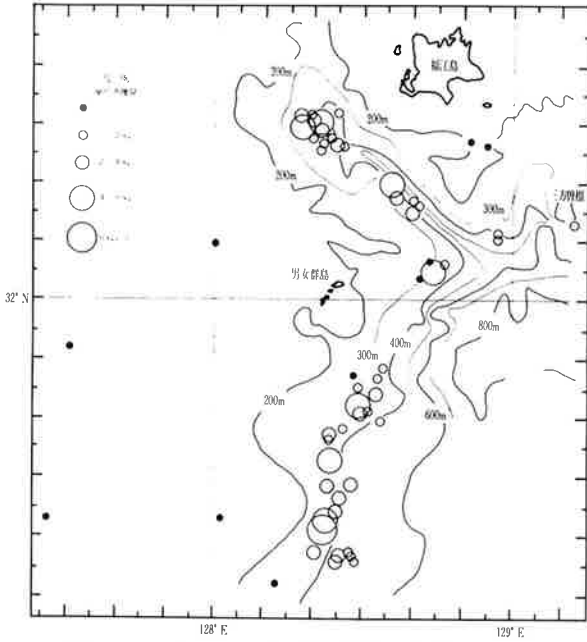


図2 ヒゲナガエビの分布状態と海底地形

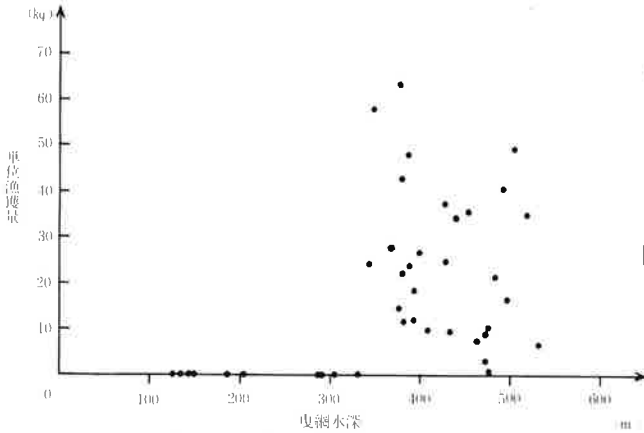


図3 曳網水深と漁獲量の関係

深別にみると(図3), 330m以浅に漁獲はなく, 330~550mの水深域で生息が認められたが, この水深の範囲では水深と分布量との関係はとくに認められない(水深550mまでの水域を調査した)。

また, 図4に示したように水深300~400mの水温は7.0~12.5℃, 400~500mは7.5~11.0℃を示し, 分布量と水温および季節との関係はみられないが,

福江島南西域では秋の漁獲が多かった(図5)。

本種については, 鹿児島県本土沿岸²⁾および大陸棚斜面³⁾に分布することが報告されている。この南部海域は鹿児島県船により, 年間300トンが漁獲²⁾されており, 北部海域の本県沿岸にも相当量の分布が予測されるので, 今後更に調査を進めていきたい。

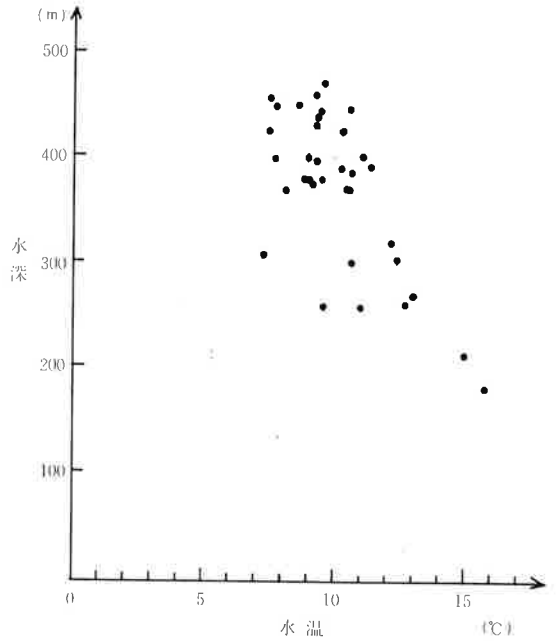


図4 水温と水深の関係

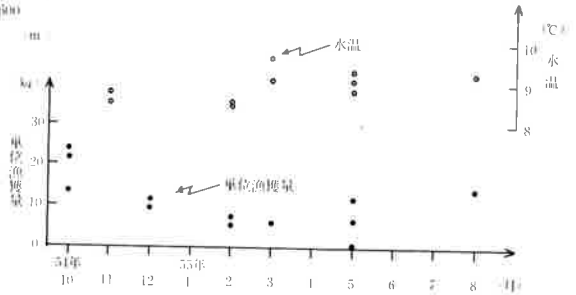


図5 海溝北端域の漁獲量と水温の月別変動

文 献

- 1) 久保伊津男, 1965: 新日本動物図鑑. 中巻, 北隆館, 東京, 597。
- 2) 徳留陽一郎, 1981: 漁場開発調査Ⅰ. 昭和53年度鹿児島県水試事業報告書 (漁業部編), 1—11。
- 3) 北島忠弘・田川勝・岸田周三, 1976: 九州南西海域の大陸斜面及び沖縄舟状海盆におけるトロール調査結果について, 西海区水研報告, 第48号, 47—92。

